

# Campus News

[ キャンパスニュース ]

2023. **1**  
Vol.61

## 【特集】

- 土木工学科棟が竣工
- 自動車部が学生フォーミュラ大会2022 EVクラスで優勝!
- 「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました



### ■ 土木工学科の学科棟が竣工しました

昨年10月、土木工学科の学科棟「土木工学科棟 あーすつりー」が完成し、11月7日(月)に竣工式が行われました。  
(本誌4・5面に特集記事)

はじまりを、つくる



静岡理科大学





# 学長挨拶

新年にあたり

学長 木村 雅和

皆様、新しい年を迎えられ、佳き日をお過ごしのことと思います。今年は卯（うさぎ）年です。うさぎのように明るく跳び跳ねて様々な問題に打ち勝つ1年にしていまいりましょう。

ただ、ここ数年の新型コロナウイルスの感染状況、昨年勃発したロシアとウクライナの紛争、これらに関連した為替の変動や物価高等、皆様はどのように感じておられるでしょうか？

私は過去にウクライナを訪れたことがあります。あの街並みが破壊された様子を見聞きするたびに、悲しくなります。この暴挙の解決には、言葉により理性に訴えることが必要です。為政者が良識を取り戻し、一刻も早く平和が戻ることを願っています。これまでの戦禍で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。

私たちを取り巻く環境や社会情勢は、刻々と変化し続けています。過去の出来事をしっかり理解した上で、現在、そして未来について考える力を持つことがとても大切です。令和4年度入学式の式辞で、1970年にフィールズ賞を受賞された広中平祐先生に触れ、次のようなお話をしました。

「広中先生は、21世紀を生き抜いていく若者たちへのメッセージとして、『これから最も要求されるのは、自分自身の判断力—多様な人生を生き抜く選択の知恵—と、考える力だ』と著書の中で述べられています。言い換えると、『生きることは学ぶことだ。生きるために学び、学ぶために生き、考え、創造する。自分の判断力を高めなければ、先の見えない現在の多様性と変動に対処することはできない。だから、判断力を高めるために、いくつになっても考えること、学ぶことを忘れない人間であって欲しい』ということだろう」と。

ごまかさずに物事を考えていくこと。そして、きちんと自分で考えて、実験をして、忠実に実験結果を見て解釈していく道筋を歩いていくことで、創造性を養い、自分自身を高めることにつながるはずです。本学学生の皆さんには「何事も自分自身で考え、判断し、行動に移すことに挑戦して欲しい」と思っていますし、現在、その後押しとなる教育・研究改革に取り組んでいます。

## 遠州灘

このような話題に触れるべきか、悩みながらも書かずにはられない。

我が国の比類なき政治家が暗殺されてから半年が経ちます。癒えぬ悲しみとは裏腹に、死者に鞭打つオールドメディアには、疑問を持たざるを得ません。さらに、悪化し続ける国際情勢。東アジア圏でも領土紛争が噂されるいま、失ったリーダーの大きさを感ぜずにはられません。

これまで良きエンジニアを輩出することこそが、大学教員の最も重要な職責と思ってきましたが、人の死を素直に悼み、我が国の繁栄と世界の平和を真剣に考えることのできる「まともな人」を輩出することが先だと、思いを新たに教育に励みたいです。(N)

# 遠州灘

## 授業の紹介

### ■ スポーツ3、スポーツ4 (集中授業)

スポーツ3は冬季集中授業で、菅平高原スキー場(長野県)において、スキーあるいはスノーボードを選択し、3泊4日で行っている授業です。2003年度から開講され、最初は20名でしたが多いときは70名の受講がありました。スキー、スノーボードの技術の向上が得られるばかりでなく、宿泊を共にすることで絆を深めることができる授業です。

スポーツ4は夏季集中授業で、2020年度から新設されました。内容はゴルフで、午前に練習場で基礎練習を5日間、6日目はゴルフコースに出てプレーを行います。レッスンプロやツアープロの指導を受けての練習ですから、学生にとってはまたとない機会となっていると思います。

いずれの授業も、生涯スポーツとして、社会人になってもスポーツに親しんでもらいたい、そのきっかけを大学で経験してほしいと始めた授業です。



▲奥ダボスゲレンデの頂上で



▲ゴルフ練習場にて。ボールの位置がチョット!

## 電動機器システム研究室(理工学部電気電子工学科)

# おじゃまします。

研究室訪問

第49回



本研究室では、電気機器およびパワーエレクトロニクスの学術分野の産業応用に焦点を当てた研究を行っています。輸送機器分野における電動化、生産技術における電動化など、時代の潮流において電気—機械エネルギー変換コンポーネントおよびシステムは重要な要素技術となっています。「常に時流に先んずべし」という豊田佐吉の言葉を座右の銘に、この分野における技術革新を目指して研究に励んでいます。研究のキーワードとして、モータにおいては「高トルク且つ高出力重量密度」、電磁アクチュエータにおいては「ローレンツ力を利用した生産技術の電動化」、誘導加熱においては「機電一体」、電力変換器においては「複合機能化」です。研究室に配属された学生は3D CADによる構造設計、電磁界シミュレーション、プログラミング、試作機製作、回路設計、実機駆動評価と幅広いスキルを習得してもらい、同分野における技術者として社会で活躍できる力をつけてもらいます。

### 研究室学生からひとこと

加納 裕斗 さん(電気電子工学科3年)

青山研究室ではロボットや電動自動車の基盤技術となる駆動源のモータの研究開発を行っています。モータハードとモータ制御まで行える研究室は日本でも多くないため、貴重な経験をしています。私は新しい駆動原理のモータの研究を行っており、企業とも共同で取り組んでいます。企業との関わりが多くあるため、社会経験を多く積むことができます。モータ技術を研究してみたい、興味がある方は、研究室に見学に来てください。

### 研究室担当教員

青山 真大 先生

#### ■プロフィール

静岡県磐田市出身。豊田工業大学大学院先端工学専攻を2008年3月に修了したのち、スズキ(株)にて電動車駆動用モータの研究に従事。その間、社会人学生として静岡大学博士課程にて博士(工学)の学位を取得。2018年3月に同社退職後、同年4月から2022年8月の間、静岡大学大学院工学領域電気電子系列助教を経て、2022年9月から本学理工学部電気電子工学科に着任。モータを基盤に誘導加熱、電力変換器、電磁流体アクチュエータの研究に従事。

## 建築のコンセプト

## ◇建築と土木の融合を表現

土木工学科棟と建築学科棟が並び立って一対であることを表現し、建築学科と土木工学科が融合した学びの場を提供する

## ◇土木的スケールの構造で建築学科棟と対をなす

土木工学科棟と建築学科棟の両者の一体性を感じさせながらも、建築との差異を表す土木的なスケールを感じさせるコンクリートの巨大な柱3本によって、床・屋根スラブを支える

## ◇フレキシブルでオープンな空間

3つのコアを中心に応力を負担し、屋根のワッフルスラブ構造とあわせることで、柱を極力減らし、フレキシブルでオープンな空間を構成する

## ◇開放的なワンルームに点在する学生の居場所

3～4階の研究エリアでは、教員のスペースの周囲に、家具などでゆるやかに分節されながら研究室や共用のライブラリが点在し、異なる分野の学生が、シェアオフィスのように同じ空間を共有する

## ◇建築的スケール要素をコアに内包

柱のようなボリューム(コア)に、階段やエレベーター、設備スペース、倉庫などの機能を内包し、建築的スケールの要素は極力表示させないことで土木の印象を深める

## ◇多目的な余剰空間

1階の通風・採光を確保するドライエリアや、大屋根の下の半屋外スペースでの展示ギャラリーや大きな壁面へのプロジェクター投影など、多目的な余剰空間を備える

## ◇環境建築

昼光利用、高効率・LED照明の採用、外皮断熱・開口部性能の強化、的確なエネルギーマネジメントなどで消費エネルギーを削減する

## ◇防災に配慮した安全・安心の学び舎

地震時には3つのコアで応力を負担し、十分な耐震性能を発揮し、大地震などの災害時に建物内に留まれる安全性に加え、非構造部材などの落下を防ぐ



## 建物概要

- 建築名称：静岡理科大学 土木工学科棟 あーすつりー
- 設計：栗生明+北川・上田総合計画(東京都文京区)
- 施工：鈴与建設株式会社
- 建築主：学校法人静岡理科大学
- 所在地：静岡県袋井市豊沢2200-2
- 構造：鉄筋コンクリート造4階建て
- 延べ面積：約3,400㎡

# 土木工学科棟 あーすつりー 内観



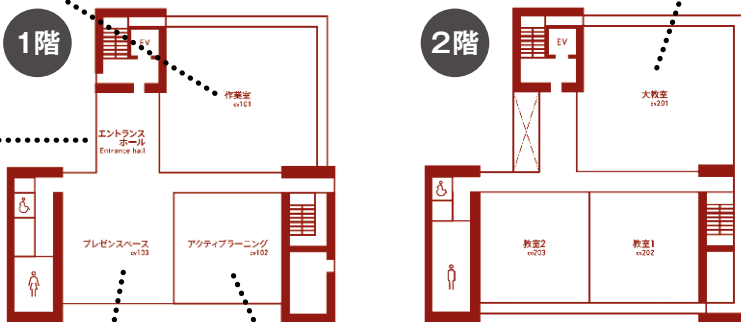
**多目的作業室 (cv101)**  
実験の準備、図面演習など作業を行う  
座席数は80席



**大教室 (cv201)**  
座席数126席の大教室  
廊下側は、二重ガラスによる仕切り



**エントランス**  
ガラス張りのエントランスに  
あーすつりーのロゴを配置



**プレゼンスペース  
(講評室) (cv103)**  
オープンな環境で、講演や課題発表など  
を行う



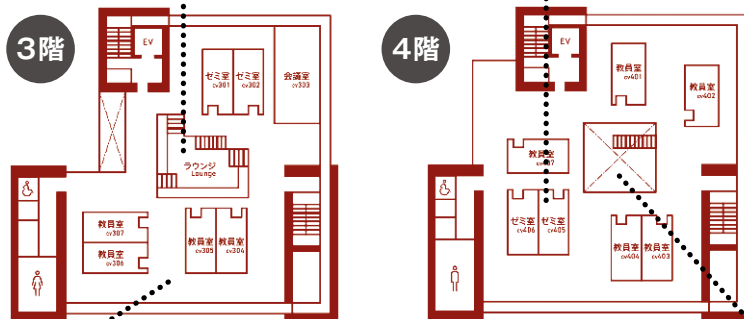
**アクティブラーニング室  
(cv102)**  
テーブルレイアウトが自由に変えられる  
環境で、グループディスカッション、グ  
ループワークを行う



**3階ラウンジ**  
ラウンジ周りは座ることができる  
交流の空間



**教員室・ゼミ室**  
3階と4階のフロア内に  
分散して配置



**研究用学生スペース**  
南北壁に設置された研究用学生スペース  
席ごとに照明を設置



**ワッフルスラブ屋根**  
3つのコンクリートコアと屋根で  
建物を支える

# 自動車部が学生フォーミュラ大会2022EVクラスで優勝!

昨年9月6～10日に静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で行われた学生フォーミュラ日本大会2022において、本学学生サークル「自動車部 SIST Formula Project (SFP)」が、電気自動車(EV)クラスで優勝(13チーム中)を果たしました。SFPのEVクラス優勝は2015年大会以来4度目の快挙となります。チームリーダーの五十嵐洋太さんと次期チームリーダーの今場大弥さんに、今大会の感想や来年度に向けた意気込みを聞きました。

まずは優勝、おめでとうございます。感想をお聞かせください。

**五十嵐さん** 3年ぶりの現地開催で、前回出場時は1年生でした。今回は最上級生として、未経験者ばかりの下級生を引っ張る立場で臨む大会だったので、とにかく大変でした。今回の結果は、チームメンバーが諦めず、ついてきてくれたおかげで残せたと思っているので、メンバーに感謝しています。

**今場さん** 現地開催の大会には初参加で、企業ブースや他チームの様子を見て、新鮮な気持ちになりました。私は制御基板担当で、大会初日は車検のために徹夜で対策をしましたが、無事に車検をクリアできたのでほっとしましたし、最終的に優勝までできてとてもうれしいです。

前回の2021年度大会(静的審査のみ開催)では、EVクラス5位、公式記録会では完走できないという悔しい結果でした。今回、特に力を入れた点はどんなところでしょうか?

**五十嵐さん** まずはSFPのEV初の完走が第一目標でした。マシントラブルが起こると止まってしまうので、丁寧に作りこむことを意識しました。その結果、大きなトラブルはなく、細かなものも減りました。当日まで心配な部分もありましたが、完走が達成できてよかったです。

今大会では、消費効率審査で、総合1位(内燃機関(ICV)クラスを含めた68チーム中)となりました。その要因はなんでしょう?

**五十嵐さん** EVが有利な審査種目ではありますが、車両の軽量化ができたことが勝因の一つだと思います。車両のパーツのほとんどは自分たちで製作していますので、軽量化できる部分はとことん削っていきました。また、



▲EV部門優勝を果たしたチームメンバー  
(車両内が五十嵐さん、その向かって右が今場さん)

フレーム形状の工夫やウイングの製作方法の見直しで大きく重量削減ができ、最終的に前回から10kg以上の軽量化に成功したことが、電費向上につながったと思います。

次の大会に向けて、抱負をお聞かせください。

**今場さん** 次回は「E01」の車両番号での参加\*となります。まずはこの番号を付ける資格を継続して得ることが目標です。車両は、先輩が素晴らしいものを作ってくれたので、ベースは引き続き使う予定です。課題はドライビングテクニックの向上です。今回は走行可能な状態になるまで時間がかかり、運転の練習機会があまりなかったため、タイムが伸び悩みました。次回は車両完成を早め、練習期間を十分に取りたいと思っています。動的審査のスコアを伸ばし、EV部門での優勝、ICVを含めた総合順位でも歴代8位以上の成績を目指します。

\*前回大会1位のチームは01(EV1位はE01)の車両番号で参加となり、一つのステータスとなっている。

今回はEVクラス優勝、おめでとうございます。

次回大会も更なる躍進を期待しています。



▲大会後には、川勝静岡県知事、大場袋井市長に表敬訪問

## 受賞一覧

賞名	概要
国土交通大臣賞	EVクラスで総合得点1位
EV総合優秀賞	EVクラスで総合得点1位
日本自動車工業会会長賞	全審査に参加し、完走したチーム
省エネ賞	消費効率審査で1位
最軽量化賞(EV)	EVクラスで最軽量車両のチーム

## チームメンバー

役割	氏名	学科・学年
チームリーダー	五十嵐洋太	機械工学科4年
ボディ班リーダー	白鳥 竜雅	機械工学科4年
ボディ班	岩品 拓海	機械工学科3年
ボディ班	佐々木雅司	土木工学科1年
インテリア班	井上 滉	建築学科3年
パワートレイン班リーダー	亀岡 千尋	電気電子工学科3年
パワートレイン班	今場 大弥	電気電子工学科3年
パワートレイン班	大庭晋之介	コンピュータシステム学科3年
パワートレイン班	古賀 涼介	土木工学科1年
サスペンション班リーダー	白井 裕斗	機械工学科3年
サスペンション班	麻野間大悟	機械工学科1年
マネジメントサポート	夏目 玲旺	理工学研究科1年
パワートレインサポート	大塩 歩夢	理工学研究科1年

※役割、学年は2022年大会時点

# Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

## 全員で勝ち取った勝利

株式会社ベルソニカ  
総務部 総務グループ チーフ 松山 幸稔 さん



学生フォーミュラ大会2022電気自動車部門 総合優勝おめでとうございます!

これも部員全員の努力と団結力、先生方のこれまでの熱心な指導の結果だと思えます。

私が初めてSISTフォーミュラプロジェクトを訪問したのは今から3年前。メンバー全員でアイデアを出し合い、実現しようと作業する姿に皆さんのモノづくりに対する情熱を見せてもらったことを鮮明に覚えております。

コロナ禍により満足な活動が出来ずに、悔しい経験をした先輩達の想いを胸に、全員で困難を乗り越え、最高の結果を収められたことは、皆さんにとって大きな喜びであるとともに自信になったのではないのでしょうか。私もこの快挙を大変嬉しく思っております。

「研究は人を育てる」静岡理工科大学の掲げる教育方針を実践し、一丸となって新たな目標に突き進んでください。皆さんの頑張りをこれからも応援します!

## VIRTUAL SHIZUOKA、デジタルネイティブ世代が 地域の課題を解決する。

日本DMC株式会社 代表取締役  
一般社団法人先端空間情報技術評価支援センター 理事  
一般社団法人静岡県無人機安全協会 理事  
小栗 幹一 さん



私が代表を務める日本DMC株式会社は、令和4年10月下旬に静岡理工科大学と三次元点群データを活用した都市空間情報の即時共有方法の共同研究を締結しました。

弊社の共同研究の目的は、弊社で2019年から研究をスタートしたLidarSLAM技術を活かして計測した静岡市街地の点群データに、携帯端末の位置情報を表示するWebアプリを開発することです。

静岡理工科大学工学部建築学科 石川春乃先生と石川研究室の学生様には、静岡市都市局都市計画部市街地整備課の協力も得て根気強く現地の実証実験に取り組んでいただき、Webアプリに表示した位置精度の評価実験などを共同で実施いたしました。このことで、GNSSの捕捉が厳しい都市空間の人の動きを見える化する上で、具体的な改善点や複合的な利用について模索が出来ました。

まだまだ研究開発は続きますが、建築、土木分野の利用だけではなくタブレットや、スマートフォンの操作に伴う知識を豊富に持ったデジタルネイティブ世代の皆さんの発想力を活かしてこの技術を社会課題の解決に活かしてほしいと願っています。

## 特集 「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました

理科実験教室イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました。この事業は、日本学術振興会の助成を受け、大学の研究者が「科研費」で行う最先端の研究の一端に、講義や実験を通して触れてもらうことで、科学のおもしろさを体感してもらうものです。

開催の様子は大学ホームページに掲載していますので、ぜひホームページをご確認ください。



### 開催一覧

開催日	テーマ	講師	参加者
8月24日(水)	超音波を使って環境に優しい燃料BDFを作ろう!	機械工学科 教授 十朱 寧	高校生 12名
10月1日(日)	走れ化学ロボット! いきものように走る油滴をつくろう2022	物質生命科学科 准教授 南齋 勉	中学生 18名
11月5日(土)	温度や光で変身! 不思議なプラスチックに触れてみよう	物質生命科学科 准教授 小土橋陽平	中学生 8名
11月26日(日)	抗菌・抗ウイルスグッズを作ってみよう! ~天然由来の染料と香料の再利用~	物質生命科学科 准教授 鎌田 昂	小学生 16名
12月18日(日)	土が液体になる? 地盤の液状化について一緒に学ぼう!	土木工学科 教授 中澤 博志	中高生 16名

アクセスはこちらから ▶ <https://www.sist.ac.jp/news/activity/>

## サイバー防犯ボランティア委託式

昨年7月12日(火)、本学にてサイバー防犯ボランティアの委託式が実施されました。静岡県警からの委託を受けた20名は、今後インターネット上の有害情報の発見・通報や、インターネットを安全に利用するための啓発活動を行います。委託式を終えた学生たちは、「フィッシング詐欺などのサイバー犯罪による被害がなくなるよう貢献したい」「大学での学びを活かし、有害サイトを発見したい」と今後の活動に向けた意気込みを語りました。



## SIST体験型講座

昨年7月30日(土)、本学先端機器分析センターでSIST体験型講座「走査型電子顕微鏡で見るミクロの世界」を開催しました。先端機器分析センターの脇川祐介講師が、センターの分析機器の紹介や、走査型電子顕微鏡(SEM)の原理の説明などを行った後、参加者は実際にSEMを使って、持ち寄った紙や粉末、電気回路部品などの表面の観察を行いました。参加者からは、「普通は触れない機器を、実際に操作して観察することができ、貴重な体験ができてよかった」と感想をいただきました。



## 地域課題解決講座

昨年8月3、4、9、22日の4日間にかけて、藤枝イノベーション・commons(藤枝市)で地域課題解決講座を開催しました。本法人の9校25名の学生・生徒が5グループに分かれ、「歴史・文化・生活を見直し、未来へつなげるために」をテーマに、藤枝市について学び、藤枝市の職員やまちづくり事業を行う企業の方へ政策提言を行いました。最も優秀だった「20代から30代の人口を増やすためには」を発表したグループに藤枝市長賞が贈呈され、10月16日(日)に藤枝市の北村正平市長へプレゼンを行いました。



## 市民体験入学

昨年8月27日(土)、本学にて市民体験入学を開催しました。今回は3年ぶりに大学キャンパス内での対面開催となりました。全体講座では国立環境研究所の五箇公一氏に、「地球環境異変と新型コロナウイルス～新たなる自然共生社会を目指して～」をテーマにご講演いただきました。選択講座では、新型コロナウイルス感染症拡大以降初めての実施となった体験講座4つを含めた6講座を実施し、受講者はそれぞれ希望する講座へ参加しました。



## SISTコロキウム

昨年9月11日(日)、3年ぶりとなるSISTコロキウムを開催しました。今回は近隣高校の生徒が話題提供者となり、課外活動で取り組む研究テーマの成果や課題を発表しました。磐田南高等学校生物部が「シダ植物に見られる蛍光成分の特定」、磐田南高等学校地学部が「静岡県駿島海岸で見られた令和元年東日本台風の高潮による浸食・運搬・堆積過程」、掛川西高等学校自然科学部が「シダ植物"ウラジロ"が巨大化する原因について」をテーマに発表し、参加した大学研究者、一般聴講者、高校生と意見交換を交わしました。





## 第2回公開講座

昨年10月15日(土)、「ワイヤレスで生活をより豊かに～ICTの現在とこれから～」をテーマに、令和4年度第2回公開講座を開催しました。今回は300講義室とオンラインのハイブリッド開催で実施し、東京理科大学工学部電気電子情報工学科准教授の高野恭弥氏と本学電気電子工学科の本良瑞樹准教授が講演を行いました。当日は98名が参加し、「ICTの話題はよく耳にするが、思っていたよりも色々なところに通信技術が使われていることを知って驚いた」などの感想をいただきました。



## コミセンDEお理工塾

昨年10月16日(日)および30日(土)に、袋井市内のコミュニティセンターで、学生団体「お理工塾応援隊」が講師となり、小学生対象の理科実験教室イベント「コミセンDEお理工塾」を実施しました。「空気と水のカタチ」、「保冷剤から芳香剤を作ってみよう!」をテーマに実験講義を行い、理科実験の楽しさを伝えました。参加者からは「温度の違いで強い力ができるのが不思議だった」、「いろんな匂いの芳香剤が作れて楽しかった」などの感想があがりました。



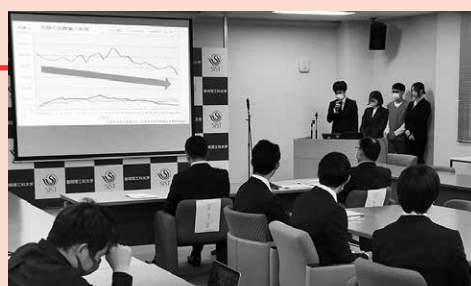
## 大学祭

昨年10月22日(土)から23日(日)にかけて、大学祭実行委員会主催の大学祭SISTIVALを開催しました。今回は、入場者数制限を設けたものの、3年ぶりに2日開催、出店の出展、学外参加者の受け付けなど、コロナ禍以前を踏襲した形式での開催となりました。2日目のステージでは、お笑い芸人のJPさんがモノマネ芸を披露し、大盛り上がりとなりました。2日合計で713名が来場し、久々に様々な方がキャンパスに訪れました。



## 地域学

昨年10月25日(火)、本学にて「地域学」の表彰式を行いました。「地域学」は袋井市との包括連携協定の取り組みの一環として、袋井市のまちづくりについて考える講座となります。参加した学生が4～5人のグループに分かれ、市の若手職員と共に市の特徴を生かした具体的な政策を提言します。本年度は「お茶×コト消費⇒モノ消費」をテーマに実施し、市長賞には「非日常を味わえる茶園マルシェ」が、学長褒章には「急須スマイル大作戦～サブスクパワーでお茶と笑顔を～」が選定されました。



## 地域創成フォーラム

昨年11月8日(火)、ホテルクラウンパレス浜松(浜松市)およびオンラインで、令和4年度地域創成フォーラムを開催しました。第1部の特別講演では、高知大学副学長(地域連携担当)次世代地域創造センター長、IoP共創センター副センター長の石塚悟史氏に「DXによる農業の変革」と題して、デジタル技術の活用による農作業の効率化について講演をしていただきました。また、第4部では、3年ぶりとなるブース展示を実施し、学内教員21名がポスターを出展しました。



# 入試広報NEWS

## ■ 本学教員の講義 視聴してみませんか？

本学の「受験生サイト」では入学試験に関する情報だけでなく、教員による模擬講義の動画が視聴できることをご存じですか？ 専門知識のない人が見てもわかりやすい内容になっていることがこの動画のポイントです。理科や数学に馴染みのない方でも楽しめる動画になっています。現在、視聴ができる講義動画をいくつかを紹介します。

- ★1億円方程式？ 天才ニュートンの思考に迫り水害を解く
- ★雨が大気を語る！ 雲を掴んで大気汚染物質の流れを知ろう
- ★ストレスを軽減させる食品素材を探せ！ 農作物の新たな力



視聴はこちらから▶

<https://www.sist.ac.jp/navi/article/movie/>

## SPECIAL MOVIE



SPECIAL MOVIE

■ 1億円方程式？天才ニュートンの思考に迫り水害を解く



SPECIAL MOVIE

▲ 雨が大気を語る！雲を掴んで大気汚染物質の流れを知ろう



SPECIAL MOVIE

▲ ストレスを軽減させる食品素材を探せ！農作物の新たな力

## ■ 静岡理科大学 次回の進路イベントのご案内

- 春休み大学見学会 3月23日(木)  
(詳細なスケジュールは確定後、受験生サイトに掲載します)
- ※イベントの詳細や参加申し込みは本学受験生サイトからどうぞ！



受験生サイトはこちら▶

<https://www.sist.ac.jp/navi/>



## 活躍する卒業生

株式会社テクノサイト  
システムソリューション第一グループ **山下 颯也 さん**  
(コンピュータシステム学科 第28期卒業生)

私はこれからの社会で必要となる情報系の知識を身に付けたいと思い、静岡理科大学に入学しました。大学では、プログラミングを中心とした情報技術について学びました。卒業研究では、これまでに学んだ知識の集大成として、学内のプログラミング教育への活用を目的としたオンラインジャッジシステムの構築を行いました。これは現在も後輩に引き継がれており、目的の達成に近付けていることをとても嬉しく思います。卒業研究を通じて、システムの要件定義から設計、コーディングとテストまでを経験することができたため、現在の業務に対しても比較的早く慣れることができたと思います。

テクノサイトでは、プログラマーとして、WebシステムやWindowsアプリケーションの開発を行っています。大学での卒業研究と比べると、考えることも責任も多く、苦労したり失敗したりすることが多々ありますが、先輩や上司の方々はその度支えてくださるため、少しずつですが成長することができています。

今後は多くの案件に取り組み、開発フローや使用するフレームワークなどの知識への理解と経験を積み、ゆくゆくは生まれ育った静岡の役に立てるようなシステム開発をすることが目標です。



## 第20回同窓会ホームカミングデーを開催しました!

昨年10月23日(日)に、同窓会ホームカミングデーを開催しました。

当日は、対面とWEBのハイブリット開催としましたが、多くの方が参加されて、久しぶりに同窓生の皆さまが交流できたイベントとなりました。

今後も感染症対策を図りつつ、同窓生のネットワークが充実するよう、イベント等の開催に努めてまいりたいと思いますので、引き続き同窓会活動にご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



▲ホームカミングデーの様子

## 同窓会各種SNSのお知らせ

同窓会活動についての発信は、同窓会公式LINE@にて先行して情報発信しますので、皆さん【友だち登録】をお願いします!



## 保護者懇談会の開催



昨年10月22日(土)に「保護者懇談会」を開催しました。今回は全てのプログラムをWebで行いましたが、今年度については「学長挨拶、後援会長挨拶、就職状況について、講演『成人年齢引き下げに伴う消費者トラブルの予防に向けて』(静岡県西部県民生活センター消費者行政班)」をWeb(オンデマンド方式)、「学科別懇談会」「個別面談」を対面にて開催しました(一部希望者はWeb)。各学科の教員紹介や授業の様子、カリキュラム、学生成績、就職状況等について説明があり、個別面談では、修学状況や就職活動状況、学生生活等助言教員と直接相談ができる貴重な機会となりました。

◀動画内で挨拶を行う木村雅和学長

## 人事異動

令和4年9月1日付採用



電気電子工学科  
准教授  
**青山 真大**

専門分野 電気電子制御

略歴 静岡大学創造科学技術大学院自然科学系教育部環境・エネルギーシステム専攻博士課程修了。静岡大学工学部電気電子工学科助教を経て、本学准教授に就任。

趣味 旅行、ドライブ、テニス

令和5年1月1日付採用



情報デザイン学科  
准教授  
**渡邊 言也**

専門分野 認知神経科学、生理心理学

略歴 玉川大学工学研究科脳情報専攻博士課程後期単位取得退学後、同大学院で博士(工学)を取得。高知工科大学総合研究所助教を経て、本学准教授に就任。

趣味 海外旅行、カメラ、ジャズ演奏

## 2022年度前期 学生表彰

優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生の表彰を行いました。受賞者は次の通りです。



**学生部長表彰** 稲垣 喜紀 さん (機械工学科3年)

静岡学生野球春季リーグ戦表彰  
ベストナイン賞 (捕手)

**学部長表彰** 長坂 元暉 さん (物質生命科学科4年)

危険物取扱者「甲種」  
資格取得

**奨励賞表彰** 鈴木 晴空 さん (理工学研究科2年)

日本技術士会中部本部  
第13回修習技術者研究業績発表会  
優秀論文発表賞

受賞者の皆さん  
おめでとうございます。

## スポットライト がんばる理工科大生

早馬 由菜 さん(機械工学科4年)

私は、流体科学研究室に所属しており、単細胞生物における生物流体の研究を行っています。静岡県にはあまり見られない現象ですが、夏になると水棲シアノバクテリアの増殖によって水面に緑色のインクをまいたような状態が貯水池などで生じます。この状態・姿のことをアオコと呼びます。近年、アオコ現象は世界中で確認されるようになりました。どうしてアオコ現象が生じるようになったのか、多岐にわたる研究が報告されていますが、いまだによく分かっていません。私はそのいまだによく分かっていない点に大変興味を持ち、あきらめず様々な実験をした結果、わずかにですが、アオコ発生の物理的背景の特徴らしきものが見えてきました。

現在は、データ整理や文献検索など、卒業研究のまとめに入っており、Scienceの考え方を通じて、物理現象を追

究することの難しさを実感しています。今後については、生物実験の手法を取り入れてさらに研究を進めたいと思ひ、本学の修士課程に進学することにしました。そして将来は、よく分かっていない現象の背後にある原理・原則を追究していけるような技術者・研究者を目指し、努力していきたいと思っています。



### 編集後記

年末年始、静岡は穏やかな天気にもまれ、良き正月を迎えることができました。世間では、新型コロナ・ウクライナ・物価高・我が国の防衛費増等々、新聞をはじめとするマスコミには、悲しくなる話題が出回っていました。今回のキャンパスニュースでは、土木工学科棟の竣工・自動車部の学生フォーミュラ大会2022EVクラスでの優勝・EventStreetで本学の学生及び教員の活躍を紹介できたことは、うれしい思いを抱くとともに、これからの未来に明るい気持ちで臨む勇気ももらえました。今年の干支の卯にあやかって、ピューーーンと大きく飛躍できますように。(K)

### 静岡理科大学キャンパスニュース

令和5年1月31日発行

企画・編集・発行 / 静岡理科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<https://www.sist.ac.jp> E-mail:shakai@sist.ac.jp

